65th Anniversary
2020 TAJIMI JC
創進
全ては可能性に満ち溢れている
新時代を創るのは我々青年だ！

12 December JCNEWS
一般社団法人多治見青年会議所２０２０年度

～卒業生の想いを引き継いで～

久野　元騎　卒業生

私はこの７年間、ＬＯＭでは理事長以外全ての役職を経験させていただきました。また平行して出向先でも多くの役職を経験しました。とても負けず嫌いで、言っていることとやっていることが違う人は大嫌い、先輩だろうがなんだろうが平気でもの申す。そして言うからにはやる、やりきる。このスタンスでスタートし７年間突っ走りました。

私が入会した７年前は、厳しい先輩や理不尽なことを平気で言う先輩がまだまだ多かったように感じます。理由があって厳しいのは耐えられますが、思い付きで理不尽なことを言われると、ついつい反抗していました。ただ、それは今でも正しいと思っています。なぜなら、人は思い付きで何かを言われても体は動くけれど心は動かない。皆さんに伝えたいこと１点目がこれ。「理不尽なことにはじゃんじゃん反抗しろ」です。しかし、ただ反抗しているだけだととてもダサい。そんな人たまに見かけた記憶がありますが、「人に言うからには自分も必ずやれ」これ２点目。どうせならカッコイイ方が良いに決まっていますよね。そして３点目、「最後まで必ずやり切れ」です。途中で投げ出すのは一番ダメ、人にとても迷惑かかります。そもそもこの世の中（ＪＣ以外でも）途中で投げ出すやつが多すぎること。無理なら最初からやらなければいいし、つい勢いで受けたのなら仕方ない。何がなんでも最後までやれ。そのように頑張ってやっていけば、必ずまわりは見方をしてくれるし、本当の仲間や友人が自然と増えていきます。最後なのにとてもありきたりなことを書いてしまいましたが、私が残るみんなに伝えたいことは以上です。

最後の年はコロナのせいで思い描いたようなラストイヤーではありませんでしたが、７年間全力で駆け抜けたのでハッキリと言えます。「我がＪＣ人生に一片の悔いなし」

恩田　紘尚　卒業生

卒業を前にＪＣニュースを書く機会をいただき、これまでの青年会議所活動を振り返るにあたり、何故自分は青年会議所に入会したのだろうか。そして何かをやり遂げ卒業したのだろうか。これまで仲間と共に歩んだ日々を思い出し、１つずつ紐解いて考える時間をいただきました。右も左もわからず飛び込んだ団体。初めての定時総会、委員会、理事会、様々な事業。その全てが新鮮で、これまでの人生で経験してこなかった時間であったと感じます。

この組織に身を置かなければ考えもしなかったであろう地域の問題。自己成長の機会。仲間との出会い。今では、これら全てを青年会議所からいただいた、恩として捉えることができています。在籍中には、良いことばかりではなかった。思い通りいかないことや、自分の不甲斐なさ、時には強い孤独を感じることもありました。そんな時、気づけば支えてくれる仲間が近くに、いつも居ました。入会当初は自分軸で考えていた行動も、そんな仲間の存在で誰かのために、誰かが頑張っているからという気持ちへと変化していきました。何かの講演でＯＢの先輩が言っていました。「ＪＣってみんな、様々な動機で入会をしてくるけど、卒業するときには不思議と皆、同じ気持ちで卒業していくんですよ」卒業する今、この言葉を思い出し本当だなと思います。

まだまだ皆さんと同じ時間を共有して活動を続けたい気持ちでいっぱいです。しかしながら青年会議所は有限です。４０歳という世代で必ず卒業しなければなりません。皆さんもいつか４０歳というタイムリミットは必ず来ます。そんなタイムリミットを迎えた時に、入会したことを誇りに思えるよう青年会議所活動に邁進していってください。最後になりますが、今日まで支えていただいたメンバーの皆様に心より感謝申し上げます。有難うございました。

三宅　輝　卒業生

私がこの多治見青年会議所に入会したきっかけは、一言でいうと社会貢献です。私が入会する前、たくさんの多治見青年会議所のメンバー、ＯＢの方が経営しているお店に来ていただき、多治見青年会議所についての話を聞きました。話を聞いているうちに私もこの多治見のためになにかさせていただきたいという思いを強く抱きました。自分の中では、大変迷いもありましたが、入会を決意しました。しかしながら、職業柄飲食店ということもあり、入会したもののなかなか参加することが難しかったですが、自分の中では、この多治見市のために少しでも役に立ったのかなと感じております。

この長くて短かった青年会議所活動の中で一番記憶に残っていることは、岐阜ブロックサッカー大会です。私自身サッカー経験者ということもあり、楽しく参加させていただきました。そこでは、大人になっても、このサッカーというスポーツを通して、こんなにも熱くなれる場があるのだと感じました。私のために必死に走り、最後触るだけのパスをしてくれるとても優しい仲間もいました。もう私は卒業ですが、この多治見青年会議所背番号１０は譲ります。これからも熱く戦ってください。

最後に卒業する前に皆様に伝えたい事があります。青年会議所の仲間は誇りです。ときには、厳しく、時には優しいメンバーは、私の中では宝物みたいな存在でした。なにかをやり遂げようとする気持ちは、凄まじいパワーがあると思います。ぜひこの青年会議所でたくさん笑い、たくさん苦労をして、今よりも一回りも二回りも成長してください。そしてかけがえのない仲間を作ってください。またお店にも遊びにきてください。最高の先輩、最高の同期、最高の後輩たち長い間、ありがとうございました。

伊藤　寿高　卒業生

私は、他のメンバーとは違い企業の一従業員という立場で青年会議所に入会いたしました。地域の金融機関に勤め、職業柄経営者の方と接する事が多いですが、ビジネスとしての関わりであり、経営者の方々がどのようなことを考え、どのような努力をしているのか好奇心があり、青年会議所に入会すれば、少しでも解るかと思い、入会しました。

入会した時に決めたことは何もせず理解することはできないので、できる限り参加をするということです。参加し、先輩方からＪＣの事を教えていただいているうちに少しずつ理解できるようになってきました。理解できれば、ただ出席するだけでなく、議論に参加できるようになってきました。

私が一番印象に残っている事は、副委員長を拝命した時です。職業柄、平日になかなか動くことができないため、自分に務まるのか不安でした。しかし、引き受けたからには、最後までできる限り務めあげようと決めました。副委員長の時に心がけたことは、委員長が何をしたいのか、何を考えているのかコミュニケーションを図り理解すること。委員会に恥をかかせないこと。以上２点を心がけて活動しました。

委員会任せにせず、自分が引っ張るくらいの気持ち臨む事により、委員会もスムーズに行う事ができました。しかし、自分一人で務め上げるものではなく、頼りになる先輩、かけがえのない同期、委員会メンバーに支えられ、できたことだと、強く感じました。卒業を前に思う事は、青年会議所での修練の場を有効に活かし、たくさん失敗の場に飛び込んでください。苦労したことは必ず、自分の大きな財産になると思います。

多治見青年会議所は時に厳しく、大きな優しさでメンバーを成長させてくれる組織だと思います。卒業しても、皆さまの活躍を楽しみにしています。３年間ありがとうございました。

大森　有希子　卒業生

私の青年会議所活動は、３年間しかありませんでした。短いながらも、多くの仲間と出会い、さまざまな活動を経験させていただきました。先輩と面談中にアクシデントがあり救急車で運ばれ頭を１７針縫う大怪我をしながら入会申し込み書を病院で書いたことを、昨日のことのように思い出します。

入会当初は、不安と期待が入り混じりこんな短い期間しか在籍できないのに青年会議所に入会する意味があるのか、入会することにより自分自身がどう変わるのか等、色々考えていました。あれから３年、あっという間に過ぎ去りました。私自身、１００%の力で青年会議所活動を行うことができたのかどうかわかりません。今振り返ると、もっと力を出せたのではないかと考える時があります。皆様に心配やご迷惑かけるばかりで恩返しできないまま、卒業するのは、とても心苦しく、心残りであります。ただ、そんな中でも印象に残って居る事は沢山あります。入会初年度の京都会議の先輩方の強い想いとフレンドシップに触れた事。２年目の総務渉外委員会の副委員長を受け深夜まで私の不甲斐なさで迷惑をかけてしまった事。済州南元ＪＣとの交流。そして、同期との出会いです。どれも振り返ると楽しい思い出になっています。

現役メンバーの皆様、私たちは、まちのため、子どもたちのため、自分たちの時間やお金を使って青年会議所活動をしています。自分のためだけに使えるものを他人のために使う。それは誰にでもできることではありません。皆さんは素晴らしい活動をしています。私たちがしている活動に誇りを持ちましょう。活動の成果は、いつか気づかぬ内に、自分たちの大きな財産になっていきます。他人のためにする、それがいつの間にか自分のためにもなっている。素晴らしい循環を皆さんが感じられるような多治見青年会議所活動を願っています。

「修練」、（Ｔｒａｉｎｉｎｇ）「奉仕」、（Ｓｅｒｖｉｃｅ）「友情」（Ｆｒｉｅｎｄｓｈｉｐ）のＪＣの三信条を次代を担うリーダーとなるべく自己研鑽とメンバー同士切磋琢磨を繰りかえしながら、多治見のまちに貢献する活動を行い、互いの友情を深めていって下さい。

３年間という短い期間ではありましたが、多治見青年会議所にて活動ができたこと、そして、無事に卒業を迎えられたことに誇りをもち、今後は、仕事に社会貢献に邁進していきたいと思います。ＪＣ活動をさせていただけた、会社、そして家族に感謝しています。ありがとうございました。

１１月例会（価値創造型リーダー育成事業Ⅱ）を終えて

１１月例会にて、価値創造型リーダー育成委員会が松竹芸能所属チキチキジョニーのお二人を招いて「価値創造型リーダー育成事業Ⅱ」を実施しました。

「事業Ⅰ」では、「視野を広げて固定概念の打破」を目標と掲げていましたが、今回はステージアップし、そこから「新たな発想を具体化する」ということをテーマとしハンズオン形式のセミナー事業を行いました。

事業にて何度も伝えていたことですが「笑い」を学ぶわけではなく、構成力と表現力を具体化することがどれだけできるかというもで、自己紹介一つをとっても構成力、表現力をどれだけ具体化しておくかで相手への伝わり方や印象が全く違いました。そして、物事を説明する中においても構成力、表現力の観点から起承転結を考えることにより、より発信力を強くすることができると感じました。

地域のリーダーとして常に先頭に立たなければならない我々にとって必要不可欠な力であり、身につけておかなければならないことの一つとして今回学ぶことができ感謝しています。ありがとうございました。

価値創造型リーダー育成委員会　委員　山本　将寛君

インフォメーション

１月　　４日	１月理事会	於	バロー文化ホール
１月　１１日	１月例会	於	産業文化センター
１月　１１日	第７０回定時総会式典	於	産業文化センター
１月　２４日	京都会議	於	京都市

ＪＣＩクリード

The Creed of Junior Chamber International

We Believe;

That faith in God gives meaning and purpose to human life;

That the brotherhood of man transcends the sovereignty of nations;

That economic justice can best be won by free men through free enterprise;

That government should be of laws rather than of men;

That earth’ s great treasure lies in human personality;

and That service to humanity is the best work of life.

ＪＣＩ Ｍｉｓｓｉｏｎ

To provide development opportunities that empower young people to create positive change.

ＪＣＩ Ｖｉｓｉｏｎ

To be the leading global network of young active citizens.

ＪＣ宣言

日本の青年会議所は
混沌という未知の可能性を切り拓き
個人の自立性と社会の公共性が
生き生きと協和する確かな時代を築くために 率先して行動することを宣言する

綱領

われわれ JAYCEE は 社会的・国家的・国際的な責任を自覚し志を同じうする者、相集い、力を合わせ青年としての英知と勇気と情熱をもって明るい豊かな社会を築き上げよう。

一般社団法人多治見青年会議所

［事務局］〒507-0831 岐阜県多治見市新町 1-23 多治見市産業文化センター 4F

TEL:0572-23-5229 FAX:0572-24-0227 E-mail:info@tajimijc.com